

第1学年 〈現代社会〉 年間指導計画案・観点別評価資料

第I部 現代社会の諸課題 この部の評価規準

関心・意欲・態度	現代社会の諸課題に興味・関心をもち、その原因、解決方法について学習する姿勢がある。
思考・判断	現代社会の諸課題について、学習内容や資料から考察したり、公正に判断したりしている。
技能・表現	現代社会の諸課題について、適切に資料を選択し、レポートを作成したり、発表したりすることができる。
知識・理解	現代社会の諸課題について、問題の所在を理解し、解決方法を考える知識がある。

①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

月	時限	項目	学習内容	この時間の評価規準の具体例
4 ～ 5 月	1 ～ 10 時限	選択テーマ1 地球環境問題とは	さまざまな地球環境問題について理解し、その発生原因を考える。調べたり、分析・考察したりすることによって問題の所在を明らかにし、解決の糸口を探る。	①地球環境問題に興味・関心がもてる。 ②地球環境問題の原因を考察することができる。 ③資料から地球環境問題のようすを読み取ることができる。 ④地球環境問題の問題点を理解している。
		追究1 温暖化、その原因は?	私たちの生活と温暖化が密接に関わっていることを理解し、対策のむずかしさについて理解しつつも、対処方法を考える。	①地球温暖化に興味・関心がもてる。 ②地球温暖化の原因を考察できる。 ③資料から温暖化のようすを読み取ることができる。 ④地球温暖化の問題点を理解している。
		追究1 京都議定書をめぐって	京都議定書の意味と、各国の取り組みについて理解する。また、京都メカニズムについて理解を深める。	①京都議定書に興味・関心がもてる。 ②京都議定書に対する各国の対応について考察することができる。 ③資料から京都議定書の内容を読み取れる。 ④京都議定書の内容と問題点を理解している。
		追究1 地球温暖化への具体的な対策	自動車をはじめとした二酸化炭素排出削減の実例を学ぶとともに、日本ではさまざまなリサイクル法の施行により循環型社会が目指されていることを理解する。	①地球温暖化対策に興味・関心がもてる。 ②地球温暖化対策を考察することができる。 ③資料から地球温暖化への具体的な取り組みを知ることができる。 ④地球温暖化対策について理解している。
		選択テーマ2 資源・エネルギー問題	私たちの生活にはさまざまな資源・エネルギーが使用されていることを理解し、各国の資源・エネルギーの生産・消費の実態を把握し、問題点を明らかにする。	①資源・エネルギー問題に興味・関心がもてる。 ②資源・エネルギー問題の原因を考察することができる。 ③資料から資源・エネルギー問題について読み取ることができる。 ④資源・エネルギーの問題点を理解している。
		追究2 理想のエネルギーは?	原子力発電の特徴と問題点を理解する。また、自然エネルギーの利用が進められていることを理解する。	①原子力発電の特徴と問題点に興味・関心がもてる。 ②原子力、自然エネルギーの利用について公正に判断することができる。 ③資料から原子力、自然エネルギーについて読み取ることができる。 ④原子力、自然エネルギーの特徴と問題点を理解している。
		選択テーマ3 科学技術の発達と生命の問題	科学技術の発達とその功罪について考える。とくに生命倫理の問題にも言及し、生命の意味について理解を深める。	①科学技術の発達に興味・関心がもてる。 ②科学技術の発達の功罪について考察できる。 ③科学技術の功罪に関する資料を、主体的かつ適切に選択し、活用することができる。 ④科学技術の発達の功罪を理解している。
		追究3 遺伝子技術は何をもたらすのか	遺伝子技術がどのように発達しているのかを時事的題材から考察する。また、そうした技術が私たちの生活にどのような変化をもたらすかを考える。	①遺伝子技術の意味について興味・関心がもてる。 ②遺伝子技術の発達の功罪について、公正に判断することができる。 ③資料から、遺伝子技術の具体例について読み取ることができる。 ④遺伝子技術の発達の功罪を理解している。
		選択テーマ4 豊かな生活と福祉社会	真の豊かさとは何かを考える。福祉社会の中で、今後改善しなければならないことは何か、明らかにする。	①豊かな生活のあり方について興味・関心がもてる。 ②真に豊かな生活とは何かを探究できる。 ③資料から福祉社会について知ることができる。 ④福祉社会の必要性を理解している。
		追究4 介護福祉士の仕事をみてみよう	介護が社会的問題となっていることを理解する。高齢社会における介護に関する制度、仕事について考える。	①介護に関する制度に興味・関心がもてる。 ②介護がなぜ社会的問題になっているかを考える。 ③資料から介護福祉士の仕事を知ることができる。 ④日本の介護に関する制度の問題点を理解している。
選択テーマ・追究5 日常生活と宗教	宗教と私たちの生活はどのように関わっているかを考察する。世界の主な宗教と日本人の宗教観について理解を深める。	①宗教について興味・関心がもてる。 ②世界のさまざまな宗教や、日本人の宗教観について考えることができる。 ③資料から人々と宗教の関わりについて考察できる。 ④宗教と日常生活の関わりについて理解している。		
選択テーマ・追究6 日常生活と芸術	私たちの生活と芸術の関係について考察する。また、日々の生活を豊かにしていく芸術のあり方を考える。	①さまざまな芸術に興味・関心がもてる。 ②芸術の意義について考えることができる。 ③資料からさまざまな芸術について知ることができる。 ④社会と芸術の関わり合いについて理解している。		

第II部 現代社会と私たちの生き方

第1章 現代の社会生活と自己実現 この章の評価規準

関心・意欲・態度	現代社会のさまざまな側面に興味・関心をもつことができる。
思考・判断	現代社会の特徴を、多面的・多角的に考察し、分析することができる。
技能・表現	現代社会の特徴について、分析、考察したことを発表するなど、適切に表現することができる。
知識・理解	現代社会の特徴を理解し、その中でどのように生きていけばよいかを考えられる。

①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

月	時限	項目	学習内容	この時間の評価規準の具体例
5 ～ 6 月	11 ～ 12 時限	第1節 現代社会のすがた		

(二)程度を選択)	1	高度情報化が進む現代社会	高度情報化社会とはどのような社会なのかを理解する。また、氾濫する情報の送り手、受け手の立場から、留意する点を考える。	①高度情報化社会に興味・関心がもてる。 ②高度情報化社会について考察できる。 ③資料から高度情報化社会のようすを考察できる。 ④高度情報化社会の発達の功罪を理解している。
	2	少子高齢化が進む現代社会	少子高齢社会になった理由とその課題について理解する。また、その対策について考える。	①少子高齢社会に興味・関心がもてる。 ②少子高齢社会の課題について考えることができる。 ③資料から少子高齢社会の対策について考察できる。 ④少子高齢社会の進展と課題について理解している。
	3	大衆化が進む現代社会	大衆社会の特徴について理解する。大衆社会の中でいかに生きていけばよいかを考える。	①大衆社会に興味・関心がもてる。 ②大衆社会の意味について考えることができる。 ③大衆社会の意味を適切に表現することができる。 ④大衆社会の問題点を理解している。
	4	国際化が進む現代社会	国際化の現状を知る。そして、国際化が日本に及ぼす影響について考える。また、異文化理解と共生の必要性について理解する。	①国際化の進展に興味・関心がもてる。 ②なぜ国際化が進んだのか考えることができる。 ③資料から国際化の具体例を知る。 ④国際化における異文化理解と、共生の必要性を理解している。
13 ～ 15 時限	第2節 青年期の意義と自己実現			
13	1 青年期を生きる私たち 2 青年期の悩み	青年期の特徴を理解し、発達課題としてのアイデンティティの確立について考える。また、適応のしくみを理解し、青年期の悩みについて考える。	①自分たちの年代である青年期という時期について興味・関心がもてる。 ②青年期の特徴と適応について考えることができる。 ③資料から青年期の特徴と適応について説明できる。 ④青年期について理解している。	
14	3 性と恋愛について考えよう 4 職業と社会参加について考えよう	青年期における性の問題について考察する。そして、豊かな人間関係を得るための、コミュニケーション能力の大切さを理解する。また、働くことの意義と社会参加について考える。	①青年期の性と、将来の職業に興味・関心がもてる。 ②性の問題と、将来の自分の職業について考えることができる。 ③青年期の性と、職業について考えるために資料を活用することができる。 ④青年期の性と、働くことの意義について理解している。	
15	5 よりよく生きるとは(1) 6 よりよく生きるとは(2)	西洋、東洋の思想や、日本の伝統的な考え方をすることにより、現代社会に生きる私たちの生き方の参考にする。	①西洋、東洋、日本の伝統的な考え方に興味・関心がもてる。 ②「よりよく生きる」ことについて西洋、東洋、日本の伝統的な考え方を参考に考えることができる。 ③「よりよく生きる」ことについて、先哲の思想を参考に考えることができる。 ④西洋、東洋、日本の伝統的な考え方を理解している。	

第2章 現代の経済と国民の福祉 この章の評価規準	
関心・意欲・態度	私たちが生活している現代社会の、経済社会という側面に興味・関心がもてる。
思考・判断	経済社会のあり方について、多面的・多角的な視点から分析、考察し、判断することができる。
技能・表現	経済社会における市場経済の意味と諸問題について、適切な資料を用いて、指摘、説明することができる。
知識・理解	市場経済のしくみをはじめとする基本的な知識を身につけ、経済社会の問題点について理解している。

①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

月	時限	項目	学習内容	この時間の評価規準の具体例
6～ 10月	16 ～ 17 時限	第1節 市場経済のしくみ		
	16	1 私たちと経済	市場経済の意味と、価格の自動調整機能について理解する。市場経済における競争の意味について考える。	①市場経済のしくみに興味・関心がもてる。 ②市場経済を中心とする経済社会のはたらきについて考えることができる。 ③需要・供給曲線やその他の資料から、価格の自動調整機能を読み取ることができる。 ④市場経済のしくみと競争の原理を理解している。
	17	2 経済の変動	国の経済規模の指標であるGDPについて理解する。景気変動のしくみと、インフレーション、デフレーションについて理解する。	①GDP、景気変動に興味・関心がもてる。 ②景気変動や経済成長について考えることができる。 ③資料から国民所得について読み取ることができる。 ④GDPの意味と景気変動について理解している。
	18 ～ 22 時限	第2節 企業からみた経済		
	18	1 企業の役割と責任	企業活動の目的と、株式会社のしくみについて理解する。また、企業の社会的責任について考える。	①企業活動の役割と責任に興味・関心がもてる。 ②企業活動の社会的責任について考えることができる。 ③企業の役割と株式会社のしくみについて資料を用いて説明できる。 ④企業活動の役割と責任を理解している。
	19	2 日本経済の変化と企業	技術革新と産業構造の変化について理解する。また、技術革新がもたらした変化について考える。	①技術革新と産業構造の変化に興味・関心がもてる。 ②技術革新による日本の産業の変化について考察できる。 ③資料から産業構造の変化を読み取ることができる。 ④技術革新と産業構造の変化を理解している。
	20	3 日本経済の課題と企業	グローバル化における日本経済の課題を考察する。とくに中小企業の現状と課題について考える。	①グローバル化における日本経済の現状に興味・関心がもてる。 ②中小企業の現状と課題を考える。 ③資料から中小企業の現状を読み取ることができる。 ④グローバル化における日本企業の課題を理解している。
21	4 労働者の権利と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容について知り、労働組合の意義について考える。また、女性と労働、外国人労働者の問題について理解する。	①労働者の権利について興味・関心がもてる。 ②労働組合の意義について考えることができる。 ③資料から労働者の権利について説明することができる。 ④労働者を取り巻く諸問題について理解している。	

22	5 労働者の権利と労働問題(2)	失業率の上昇について理解する。賃金、労働時間などの雇用環境の変化について考察する。	①労働者の雇用環境に興味・関心がもてる。 ②労働者の雇用環境の変化について考えることができる。 ③資料から現在の雇用環境を読み取ることができる。 ④失業率、雇用、賃金、労働時間の変化を理解している。
23 ～ 28 時限	第3節 福祉社会をめざして		
23	1 政府の役割と責任	財政の三つの機能（資源配分機能、所得再分配機能、景気の安定化機能）について理解する。	①財政の機能について興味・関心がもてる。 ②財政政策について考察することができる。 ③資料から財政政策の内容を読み取ることができる。 ④財政の機能を理解している。
24	2 日本の財政の課題	日本の税制について理解する。また、財政赤字について考察し、問題点を明らかにする。	①日本の財政について興味・関心がもてる。 ②日本の財政について考察できる。 ③資料から日本の財政の課題を考え、適切に表現できる。 ④日本の財政の問題点を理解している。
25	3 金融の役割と責任	金融の役割と現状について理解する。また、中央銀行である日本銀行のはたらきについて理解する。	①金融の役割について興味・関心がもてる。 ②金融政策の現状を考察できる。 ③資料から金融の役割を説明できる。 ④金融の役割を理解している。
26	4 消費者としての私たちと経済	増加している消費者問題について理解を深める。また、消費者の権利について考察する。	①消費者問題について興味・関心がもてる。 ②消費者の権利について考察できる。 ③資料から消費者の権利を守るしくみを説明できる。 ④消費者問題と消費者の権利を守るしくみを理解している。
27	5 公害対策と環境保全	日本の公害の歴史について理解を深め、企業の環境への取り組みを考察する。また、循環型社会のあり方を考える。	①公害対策について興味・関心がもてる。 ②公害対策について考察できる。 ③資料から公害のようすを知ることができる。 ④循環型社会の必要性を理解している。
28	6 福祉社会を実現するために	日本の社会保障制度のしくみを理解し、福祉社会の実現に向けた自分自身のあり方について考える。	①福祉社会について興味・関心がもてる。 ②福祉社会と私たちのあり方について考察できる。 ③福祉社会実現のための取り組みについて、自分の考えを表現することができる。 ④福祉社会のあり方を理解している。

第3章 現代の民主政治と民主社会の倫理 この章の評価規準	
関心・意欲・態度	民主政治と日本国憲法の関係、三つの基本原理について興味・関心がもてる。
思考・判断	日本国憲法の基本原理などについて考察したり、公正に判断したりすることができる。
技能・表現	民主政治の意義と日本国憲法の原則などについて、適切な資料を活用して説明することができる。
知識・理解	民主政治の意義と日本国憲法の原則について理解している。

①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

月	時限	項目	学習内容	この時間の評価規準の具体例
10 ～ 12 月	29 ～ 35 時限	第1節 基本的人権と日本国憲法		
	29	1 人権の獲得と法の支配	基本的人権が権利として認められるようになった過程と民主政治の歩みを理解する。また、法の支配の意味を理解する。	①人権獲得の歴史に興味・関心がもてる。 ②人権獲得の意義について考えることができる。 ③資料から人権獲得の歴史を読み取ることができる。 ④人権獲得の歴史と、法の支配について理解している。
	30	2 日本国憲法	日本国憲法の制定過程とともに、日本国憲法の三つの基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解する。	①日本国憲法の制定過程と三つの基本原理に興味・関心がもてる。 ②日本国憲法の制定過程について考察することができる。 ③資料から日本国憲法と大日本帝国憲法の違いを説明できる。 ④日本国憲法の制定過程と基本原理を理解している。
	31	3 自由権と公共の福祉	日本国憲法が保障する自由権の内容（生命・身体の自由、精神活動の自由、経済活動の自由）と公共の福祉について理解する。	①自由権について興味・関心がもてる。 ②自由権の必要性と、公共の福祉について考えることができる。 ③資料から自由権の必要性について読み取ることができる。 ④自由権の内容と公共の福祉の意味を理解している。
	32	4 平等権と差別	日本国憲法が保障する平等権の意味を理解し、今も残る差別の問題について考察する。	①平等と差別の問題に興味・関心がもてる。 ②身のまわりの差別や偏見について考えることができる。 ③資料から差別の実態を読み取ることができる。 ④平等権と差別の関係について理解できる。
	33	5 社会権と参政権・請求権	日本国憲法が保障する社会権（生存権、教育を受ける権利、労働基本権）、参政権、請求権、国民の義務を理解する。	①社会権、参政権、請求権、国民の義務について興味・関心がもてる。 ②社会権、参政権、請求権、国民の義務の意義を考察できる。 ③資料から社会権、参政権、請求権、国民の義務の内容を読み取ることができる。 ④社会権、参政権、請求権、国民の義務の内容を理解している。
	34	6 広がる人権の考え方	新しい人権の内容（環境権、知る権利、プライバシーの権利）について理解を深める。	①新しい人権について興味・関心がもてる。 ②新しい人権について公正に判断することができる。 ③資料から新しい人権について読み取ることができる。 ④新しい人権の内容を理解している。
	35	7 日本国憲法と平和主義 8 平和への訴え	日本国憲法における第9条（平和主義）の意味を理解する。また、日本の安全保障と核兵器に関して、歴史的な経緯をふまえて考察する。	①平和主義と核兵器の問題について興味・関心がもてる。 ②平和主義と核兵器の問題について公正に判断できる。 ③資料から平和主義と核兵器の問題を読み取れる。 ④平和主義と核兵器の問題を理解している。
	36 ～ 43 時限	第2節 国民主権と政治参加		

36	1 国民主権と議会制民主主義	民主政治の根幹となる国民主権の意味を理解する。また、議会制民主主義と三権分立のしくみを理解する。	①国民主権と議会制民主主義に興味・関心がもてる。 ②国民主権と議会制民主主義について考察できる。 ③資料から三権分立のしくみを読み取ることができる。 ④国民主権と議会制民主主義について理解している。
37	2 国会のしくみと役割	国権の最高機関である国会のしくみと役割を理解する。とくに二院制と国政調査権の意義について理解を深める。	①国会のしくみと役割に興味・関心がもてる。 ②二院制と国政調査権の意義について考察できる。 ③資料から国会のしくみと役割を読み取ることができる。 ④国会のしくみと役割を理解している。
38	3 国会の課題	国会の審議が形式化している現状をふまえ、政権交代、他国の政治制度、国会改革などについて考察する。	①国会の課題に興味・関心がもてる。 ②国会の課題を考察できる。 ③資料から国会の課題について知ることができる。 ④国会の課題を理解している。
39	4 内閣と行政の役割と責任	日本の議院内閣制について理解し、内閣の仕事と役割について考察する。また、行政改革について理解する。	①内閣と行政の役割と責任に興味・関心がもてる。 ②内閣と行政の役割と責任を考察できる。 ③資料から日本の行政機関と議院内閣制のしくみについて読み取ることができる。 ④内閣と行政の役割と責任を理解している。
40	5 司法の役割と責任	裁判所のしくみと役割について理解する。そして、司法制度改革について理解を深める。	①司法の役割に興味・関心がもてる。 ②司法の役割と改革について考察できる。 ③資料から司法の課題を読み取ることができる。 ④司法の役割と責任を理解している。
41	6 地方自治の役割と課題 7 変化する地方自治	地方自治の本旨としくみについて理解する。そして、三位一体改革の内容、市町村合併について考察し、その意義を考える。	①地方自治の役割と課題に興味・関心がもてる。 ②地方自治の役割と課題を考察できる。 ③資料から地方自治の役割と課題を読み取ることができる。 ④地方自治の役割と課題を理解している。
42	8 政党政治のしくみと課題	日本の政党の変遷を理解して、政党とは何かを考える。また、民主政治における世論とマスメディアの役割について考察する。	①政党政治のしくみと課題に興味・関心がもてる。 ②政党政治のしくみと課題を考察できる。 ③資料から政党の変遷と政党政治の現状について読み取ることができる。 ④政党政治のしくみと課題を理解している。
43	9 選挙制度とその課題 10 政治参加の意義	国民主権の実現の場である選挙制度のしくみと課題を理解し、政治参加の意義について考察する。	①選挙制度とその課題、政治参加の意義に興味・関心がもてる。 ②選挙制度と政治参加の意義を考察できる。 ③資料から選挙制度とその課題について考察できる。 ④選挙制度とその課題、政治参加の意義を理解できる。

第4章 現代の国際社会と日本の役割 この章の評価規準	
関心・意欲・態度	グローバル化が進んでいる国際社会における日本の役割について、興味・関心がもてる。
思考・判断	国際社会と日本の役割について、多面的・多角的に考察し、公平に判断することができる。
技能・表現	資料を適切に選択・活用し、国際社会の現状と日本のあり方について表現できる。
知識・理解	国際社会の現状と日本の役割について理解できる。

①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

月	時限	項目	学習内容	この時間の評価規準の具体例
1 ～ 3 月	44 ～ 49 時限	第1節 国際経済の動向		
	44	1 国際経済の変化	戦後の国際経済の動向と国際組織を理解する。自由貿易の拡大が利益を生み出した点と、各国間の摩擦を引き起こしている現状を考察する。	①戦後の国際経済の動向に興味・関心がもてる。 ②国際経済の動向と自由貿易について考察できる。 ③資料から国際経済のしくみについて考察できる。 ④国際経済における自由貿易の意味を理解できる。
	45	2 国際通貨体制の変遷	戦後の国際経済における外国為替相場について理解する。そして、固定相場制から変動相場制への移行、変動相場制における各国通貨の現状について考察する。	①外国為替相場に興味・関心がもてる。 ②変動相場制のしくみを考察できる。 ③資料より円高・円安による影響について説明できる。 ④円高・円安による影響を理解できる。
	46	3 グローバル化した世界	世界経済のグローバル化について理解する。グローバル化した国際経済における日本のあり方を考察する。	①グローバル化と私たちの生活の関わりに興味・関心がもてる。 ②グローバル化による生活の変化に気づくことができる。 ③資料から日本やその他の国のグローバル化のようすについて考察することができる。 ④グローバル化と日本の関係を理解できる。
	47	4 活発化する地域主義	地域的経済統合の意味について理解する。代表例としてEUの発展について学習する。その他、さまざまな地域主義の例を考察する。	①地域的経済統合に興味・関心がもてる。 ②経済統合の進展の意義について考察できる。 ③資料から地域主義が活発化している現状を読み取ることができる。 ④地域主義の現状と、その影響について理解できる。
	48	5 経済格差と南北問題	南北問題の現状とその原因について理解する。南北問題に対する国連の対応や、発展途上国の経済成長に関して考察する。	①南北問題について興味・関心がもてる。 ②南北問題が生じた原因を考察することができる。 ③資料から南北問題の現状を読み取ることができる。 ④南北問題の原因と現状を理解できる。
	49	6 経済援助と貧困の解消	発展途上国に対する先進国や日本の援助の実態について理解し、効果的な援助について考える。	①経済援助の実態に興味・関心がもてる。 ②効果的な経済援助のあり方を考えることができる。 ③資料から経済援助の実態を読み取ることができる。 ④先進国や日本の経済援助の実態を理解できる。
	50 ～ 52 時限	第2節 国際政治の動向		

50	1	国際社会における国家	国際社会における主権国家の意味を理解する。その際、領土問題などにも留意する。また、国際法の内容を理解し、主権国家と国際法との関係を考察する。	①国家と国際法の内容に興味・関心をもてる。 ②国家という概念を考察できる。 ③領土問題に関する資料を主体的かつ適切に選択して、活用することができる。 ④主権国家と国際法の内容について理解できる。
51	2	国際政治の変化	戦後の国際政治の動向について、冷戦を中心として理解する。また、冷戦の終結と冷戦後の国際社会について考察する。	①戦後の冷戦構造に興味・関心をもてる。 ②冷戦終結までの過程を考察できる。 ③資料から冷戦の経緯を読み取ることができる。 ④冷戦の経緯や、その後の影響を理解できる。
52	3	新しい対立と紛争	内戦や民族紛争の原因と現状について理解する。また、テロが発生している現状についても考察する。	①世界でさまざまな紛争が起きている現状に興味・関心をもてる。 ②世界で起きている紛争の原因を考察できる。 ③資料から紛争の現状を読み取ることができる。 ④紛争の内容、原因を理解できる。
53 ～ 57 時限		第3節 平和と共生の追求		
53	1	国連の役割と責任	国連の成立過程とその役割、組織について理解する。とくに安全保障理事会の役割と活動について理解する。	①国連の成立と役割に興味・関心をもてる。 ②国連の役割を考察できる。 ③資料から国連のしくみを読み取ることができる。 ④国連の成立と役割、しくみを理解できる。
54	2	国連を中心とした国際平和	世界平和への取り組みとしての、国連平和維持活動の役割と成果について理解する。また、日本の国際貢献について考察する。	①国連平和維持活動のあり方に興味・関心をもてる。 ②国連平和維持活動の内容と日本の関わりについて考察できる。 ③資料から日本が国際社会で果たす役割を読み取り、自分の考えを表現することができる。 ④国連平和維持活動の役割と、日本の国際貢献の必要性を理解できる。
55	3	核兵器の削減と軍備の縮小	戦後の核兵器をめぐる動きを理解する。また、軍縮への国際的な取り組みについて理解する。	①核兵器と軍縮の問題について興味・関心をもてる。 ②核兵器と軍縮の問題について公正に判断できる。 ③資料から核兵器をめぐる現状を読み取ることができる。 ④核兵器をめぐる問題と軍縮への取り組みを理解している。
56	4	世界的な人権保障の動き	国際的な人権保障の取り組みについて理解する。また、その課題について考える。	①国際的な人権保障の取り組みに興味・関心をもてる。 ②人権問題と難民問題の現状と課題を考察できる。 ③資料から国際的な人権保障の課題を読み取ることができる。 ④国際的な人権保障の広がりを理解できる。
57	5	さまざまな国際協力	国家による国際協力と、民間団体による国際協力について理解する。とくにNGOの活動について考察し、理解を深める。	①NGOなどによる国際協力に興味・関心をもてる。 ②地球市民としてのあり方について考察できる。 ③資料から、さまざまな国際協力が行われていることを読み取ることができる。 ④さまざまな国際協力について理解できる。

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	学年	2	単位数	3
教科書	詳説 世界史B (山川出版社)			教材等	「グローバルワイド最新世界史図表」(第一学習社)		
目標	世界史の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
観点の内容	世界の歴史に関心を持ち、意欲的に追究しようとしているか。	世界の歴史のそれぞれの事象を大きな流れのなかにとらえ、様々な角度から考察できるか。また、様々な見方について検討し、自分の意見が持てるか。	世界の歴史についての資料を収集し、必要な情報を選択して活用できるか。また、それらをもとに考察した結果を適切に表現できるか。	世界の歴史をわが国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけているか。			
評 方 法	定期考査		○	○			
	授業プリント	○	○	○			
	課題提出状況	○		○			
	授業に対する姿勢	○	○	○			
月	単 元 名	学 習 目 標		学 習 内 容			
4	先史の世界 オリエントと地中海世界 オリエントと地中海世界	<ul style="list-style-type: none"> 人類の進化の過程、文明の誕生について理解する。 文化の地域性に着目させる。 ギリシア文明の成立・発展について考察する。また、文明と文明の接触に着目させ、各文明がどのように変容したかを把握する。 		人類の進化 文化から文明へ 人類の言語の分化 シュメール人の都市国家 メソポタミアの統一と小アジア エジプトの統一国家 東地中海世界 古代オリエントの統一 パルティアとササン朝 イラン文明の特徴 エーゲ文明 ポリスの成立と発展 アテネ民主政とペルシア戦争 ヘレニズム時代 ギリシアの文化			
5	オリエントと地中海世界 アジア・アメリカの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> ローマ帝国の成立と発展、キリスト教の特色を理解する。また、ローマとキリスト教がヨーロッパに与えた影響に着目する。 インドの古典文明の特色を理解する。その際、仏教の成立・発展に留意する。 		ローマ共和政 内乱の1世紀 ローマ帝国 キリスト教の成立 ローマの文化 インド文明の形成 統一国家の形成 インド古典文化 の黄金期 南インドの王朝 東南アジア世界の形成 インド洋ネット ワークの成立			
6	アジア・アメリカの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> 中国文明の成立と発展について理解する。その際、中国文明の特色と周辺地域に与えた影響に着目させる。 秦・漢帝国の特質について考察しつつ、周辺地域との関連にも留意する。 古代アメリカ文明の特色を理解する。 		中国文明の発生 殷と周 春秋・戦国時代 社会変動と新思想 秦の統一 漢代の政治 漢代の社会と文化 秦・漢帝国と世界 アメリカ先住民 マヤ・アステカ文明とインカ文明			
7	内陸アジア世界・東アジア世界の形成 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> 遊牧騎馬民族の生活と周辺地域との接触・交渉について考察する。 中国社会の変化と周辺民族の活動について理解する。 東アジア文化圏の特色を把握させる。 イスラーム世界の成立と発展、イスラーム文化の特色について考察する。 		遊牧民の生活と国家 スキタイと匈奴 オアシスの生活 北方民族 の動向 分裂の時代 社会経済の変化 魏晉南北朝の文化 周辺国 家の形成 隋の統一と唐の隆盛 唐代の制度と文化 唐と隣接諸国 唐の動揺 五代の分裂時代 イスラーム世界の成立 イスラーム世界の発展 インド・東南 アジア・アフリカのイスラーム化 イスラーム文明の発展			
9	ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ゲルマン民族やスラブ民族の活動によってヨーロッパの原形が成立していったことを理解させる。 ヨーロッパ中世社会の成立とその文化の特徴を学ぶ。 		ゲルマン人の大移動 フランク王国の発展とイスラームの侵入 ローマカトリック教会の成長 教会の権威 ビザンツ帝国の繁栄と 衰亡 十字軍とその影響 商業の復活 封建社会の衰退 英仏百年 戦争とバラ戦争 ドイツ・スイス・イタリア・北欧と西ヨーロッパ の中世文化			
10	内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> 中国文明と周辺民族との接触・摩擦を軸に東アジア世界の変化について考察する。 モンゴル民族の発展とその影響について考察する。 明・清帝国や西アジア世界の変遷について理解を深める。 		トルコ民族の進出 東アジアの勢力交替 北方の諸勢力 宋の統治 モンゴルの大帝国 14世紀の東アジア 明初の政治 明後期の社会と文化 東アジアの状況 清朝の統治 清朝支配の拡大 ティムール朝の興亡 オスマン帝国の成立と発展 サファヴィー朝 の興隆 ムガル帝国の成立と文化			
11	近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> 近代ヨーロッパ成立の基礎となるルネサンス・大航海時代・宗教改革について考察する。 ヨーロッパ諸国の変容について理解する。 		大航海時代 商業革命と価格革命 ルネサンス 宗教改革 対 抗宗教改革 イタリア戦争と主権国家体制 スペインの全盛期 オランダとイギリスフランスの宗教内乱と絶対王政 三十年戦争 重商主義 イギリス革命 イギリス議会政治 ルイ14世の時代 プロイセンとオーストリア ロシアとポーランド分割 ヨーロッパ 諸国の海外進出 17～18世紀のヨーロッパ文化			
12	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> 近代市民社会の原理を提起する二重革命について考察する。 		産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン			
1	欧米における近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義や近代市民社会の基礎が形成されていく過程について理解を深める。 オスマン帝国の衰退やアジア諸国の変貌について、列強の進出を軸に考える。 		ウィーン体制 フランス7月革命とイギリスの諸改革 社会主義思 想の成立 諸国民の春 ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展 19世紀欧米の文化 オスマン帝国支配の動揺 清朝の動揺とヨー ロッパの進出 国内動乱と近代化の始動 東アジア国際秩序の再編			
2	帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義諸国による世界分割と、それが世界大戦をもたらしたことを認識させる。 二つの世界大戦の経過、戦間期の欧米諸国やアジア・アフリカの情勢を考察する 		帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 中国分割の危機 日露対立と列強 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦と ロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ民 族主義の進展 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦			
3	冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> 米・ソの対立や第三世界の台頭などを経て、世界は多極化へと向かったことを把握させるとともに、地域紛争の続発など現在世界が直面している問題について考えさせる。 		東西対立の始まりとアジア諸地域の自立 冷戦構造と日本・ヨー ロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経 済の危機 冷戦の解消と世界の多極化 ソ連・東欧社会主義圏の解 体とアジア圏社会主義の転換 現代文明			

日本史Bシラバス

教科 地理歴史 科目 日本史B 履修学年 2 学年文系
 単位数 3 単位 使用教科書 山川出版社 詳説日本史B
 副教材 図説 浜島書店 新詳 日本史

教科目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学期	月	時数	学習内容	評価の観点			
				関	思	技	知
前期	4月	1時間	歴史へのアプローチ ○歴史と資料 大仏造立	○	○	○	○
		2時間	第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり	○	○	○	
		3時間	2. 農耕社会の成立	○	○	○	
		3時間	3. 古墳とヤマト政権	○	○	○	○
		2時間	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷		○	○	○
		4時間	2. 律令国家への道		○	○	○
	5月	4時間	3. 平城京の時代		○	○	○
		2時間	4. 天平文化			○	○
		3時間	5. 平安王朝の形成		○	○	○

前期	5月	2時間	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治		○		○
		2時間	2. 国風文化			○	○
		2時間	3. 地方政治の展開と武士		○	○	○
	6月	3時間	第II部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭		○	○	○
		3時間	2. 鎌倉幕府の成立		○		○
		3時間	3. 武士の社会	○	○	○	○
		2時間	4. 蒙古襲来と幕府の衰退			○	○
		2時間	5. 鎌倉文化		○	○	○
		4時間	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立		○		○
	7月	3時間	2. 幕府の衰退と庶民の台頭	○	○		○
		2時間	3. 室町文化	○	○	○	○
		2時間	4. 戦国大名の登場		○		○
		1時間	歴史へのアプローチ	○	○	○	○
	9月	4時間	第III部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権	○	○	○	○

前期	9月	2時間	2. 桃山文化		○	○	○
		5時間	3. 幕藩体制の成立		○	○	○
		2時間	4. 幕藩社会の構造	○	○		○
		1時間	歴史へのアプローチ ○歴史の説明 朝鮮通信使	○	○	○	○
		2時間	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定		○		○
後期	10月	3時間	2. 経済の発展		○		○
		2時間	3. 元禄文化			○	○
		3時間	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革	○	○		○
		2時間	2. 宝暦・天明期の文化		○	○	○
		4時間	3. 幕府の衰退と近代への道	○	○		○
		2時間	4. 化政文化		○	○	○
	11月	3時間	第IV部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱		○	○	○
		5時間	2. 明治維新と富国強兵	○	○	○	○

後 期	11 月	5 時 間	3. 立憲国家の成立と日清戦争	○	○		
		4 時 間	4. 日露戦争と国際関係		○	○	○
	12 月	3 時 間	5. 近代産業の発展	○	○		○
		2 時 間	6. 近代文化の発達	○		○	○
		4 時 間	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本		○		○
		3 時 間	2. ワシントン体制		○		○
	1 月	1 時 間	3. 市民生活の変容と大衆文化	○	○		○
		3 時 間	4. 恐慌の時代		○		○
		3 時 間	5. 軍部の台頭		○		○
		4 時 間	6. 第二次世界大戦	○	○	○	○
		3 時 間	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革	○	○	○	○
	2 月	2 時 間	2. 冷戦の開始と講和	○	○		○
		2 時 間	第12章 高度成長の時代 1. 55年体制		○	○	○
		2 時 間	2. 経済復興から高度成長へ	○	○	○	○

後 期	2 月	2 時 間	第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道	○	○		○
		1 時 間	2. 冷戦終結と日本社会の動揺	○	○		○
	3 月	1 時 間	歴史へのアプローチ ○歴史の論述 歴史の流れを組み立てる	○	○	○	○

評価方法について

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の観点	歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。	日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。	基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。
授業姿勢・態度	○	○	○	○
定期考査		○		○
課題・提出物	○		○	○

◇平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断します。

◇授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とします。

◇課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とします。

地理Bシラバス

教科 地理歴史 科目 地理B 履修学年 2 学年理系 単位数 3 単位
 使用教科書：帝国書院 詳説地理B 副教材：第一学習社 最新地理図表 GEO

月	単元と項目		時数	学習の目標及び内容	評価の観点			
					関	思	技	知
4	第 I 部 さまざまな 地図と地理 的スキル	1章 地理情報と地図 1節 現 代世界の地図	1	世界地図は各時代の人々の世界観の反映 であることに気付く。	○	○		○
		2節 地図の種類とその利用	1	地球体としての地球の特徴と時差の求め方 を知る。	○	○	○	○
		3節 地理情報の地図化	1	地理情報の統計地図化を身に着ける。	○	○	○	○
		2章 地図の活用と地域調査	1	生活圏の地域的特色を捉える地理的スキルを 身につける。	○	○	○	○
5	第 II 部 現代世界 の系統地 理的考察	1章 自然環境 1節 世界の地 形	6	営力的視点, 大地形, 小地形, その他の地 形の分布や成因を知る。	○	○		○
		2節 世界の気候	9	気候要素, 気候因子, 気候区の特徴と農業 の相関関係を知る。	○	○		○
		3節 日本の自然の特徴と人々 の生	2	日本の自然・地形・気候・自然災害の特徴を 理解する。	○	○	○	○
6		4節 環境問題	5	さまざまな環境問題の事例を考察する。	○	○		○
		2章 資源と産業 1節 産業の 発達と変化	0.5	産業と自然環境との関わりを考察する。	○	○		○
7		2節 世界の農林水産業	5.5	自然環境と農業のかかわり方の変化を捉え る。	○	○		○
		3節 食料問題	2	世界の食料需給の地域的なかたよりを大観 する、	○	○		○
		4節 世界のエネルギー・鉱産 資源	3	エネルギー資源の利用と分布, 鉱産資源の 分布を考察する。	○	○		○
9		5節 資源・エネルギー問題	3	現代世界の資源・エネルギー問題を大観 し, 先進国と発展途上国の消費の偏りを理解 する。	○	○		○
		6節 世界の工業	6	工業の発達や立地, 世界の工業地域や, 世 界の工業の現状と課題, 及び日本の工業の 課題を考察する。	○	○		○
		7節 第3次産業	1	第3次産業が「経済の中心となっている現状 と進展と様子を捉える。	○	○		○
		8節 世界を結ぶ交通・通信	1	世界を結ぶ交通・通信による一体化と地域 差を考察する。	○	○		○
10		9節 現代世界の貿易と経済圏	2	世界貿易や経済圏及び日本の貿易や経済 の現状と課題を考察する。	○	○		○
		3章 人口, 村落・都市 1章 世 界の人口	1	世界の人口について, 世界人口の分布の特 色や動態, 人口構成や人口転換を考察す る。	○	○	○	○
		2章 人口問題	2	発展途上国, 先進国, 日本の人口問題の事 例を考察する。	○	○		○
		3章 村落と都市	4	村落と都市について, 世界および日本の都 市の特徴を考察する。	○	○		○

		4章 都市・居住問題	4	世界及び日本で都市・居住問題の解決の現状を捉える。	○	○		○
11		4章 生活文化, 民族・宗教 1節 生活文化	2	生衣食住を取りあげ, それらの分布や地域的差異を理解する。	○	○		○
		2節 民族と宗教	2	民族と宗教について概観する。	○	○		○
		3節 現代世界の国家	1	国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について考察する。	○	○		○
		4節 民族・領土問題	5	民族紛争の原因を言語・宗教・領土面からを考察する。	○	○		○
		第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か	0.4	地域概念や地域区分の目的, 意義を理解する。	○	○	
		2節 地域区分のさまざまなスケール	0.3	地域区分のさまざまなスケールの有用性に気づく。	○	○	○	○
		2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法	0.3	地誌の考察方法について具体的な方法を理解する。	○	○		○
12		2節 東アジア 変化に富んだ地形と気候	7	東アジアの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
		3節 東南アジア	4	東南アジアの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
1		4節 南アジア	3	南アジアの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
		5節 西アジアと中央アジア	3	西アジアと中央アジアの自然, 生活文化, 交易と都市, 資源と産業の面を比較して考察する。	○	○		○
		6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	3	北アフリカとサハラ以南のアフリカの気候と植生, 歴史的背景と文化, 一次産品への依存, 生活の変化と他地域との結びつきの面において, 対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。	○	○		○
2		7節 ヨーロッパ	5	ヨーロッパの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
		8節 ロシア き	2	ロシアの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
		9節 アングロアメリカ	5	アングロアメリカの多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	○	○		○
3		10節 ラテンアメリカ	3	ラテンアメリカの特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する,	○	○		○
		11節 オセアニア	3	オセアニアの特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。	○	○		○
		3章 現代世界と日本	1	現代世界における日本の特色について, 多面的・多角的に考察し, 日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して, その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。	○	○	○	○